OPEN JAPAN
オープンジャパン

OPEN JAPAN 活動報告書　～2019.3

誰かのために動いたときに人はとてつもない大きな力を発揮できるんだ。
そんな力が集まれば、被災地と未来に笑顔が生まれる。
動こう。そして、ともに笑顔を作ろう。　OPEN JAPAN 代表理事　吉澤 武彦

緊急支援 2018

秋田市水害、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震、他

■ まずは動く!!　自然災害が起きたら何をすると決まっているチームではない！

地震や水害など被害の種類、そして季節や地域、また広域性。今、何が必要とされているか?! その為にはどうすればいいかを考え動く。人命救助、炊き出しなど命を繋ぐ支援。地元の団体、行政や社会福祉協議会などと話し合い、現地にベースを構え支援体制を整える。重機を使った支援、大工や美容師など、自分のスキルが被災地で活きることを知っている仲間達が日本だけでなく世界からも駆けつけてくれる。そうした仲間達と共に生活しながらのネットワーク型支援。
先人達は過去に何度も自然災害を乗り越えて来た。自然に近い生活から快適さや便利なライフスタイルへと移行してきた現代の暮らしのなかで、過去から学ぶ「災害文化」を「暮らしの文化」にしていかなければならないと感じている。現代社会の暮らしが地球環境の負担を招き、多くの災いをもたらす原因のひとつになっている事。それに気づき平常時から、そして災害による非常時にも、みんながほんの少しだけでも動いてみると、ひとりひとりの力は小さいけれど集まれば星空みたいに暗闇を照らす光を届ける事ができると信じている。未来の光そしてその先の笑顔の為に。

肥田ひーさー（ん）
311 生まれの東北人。
現住所災害支援地。車中泊にて支援活動生活 8 年目。

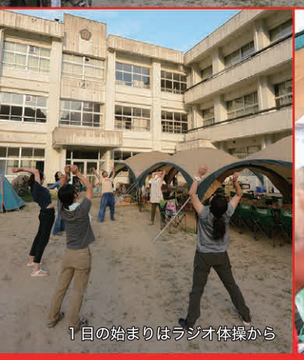
現地での水害対応説明会

技術系支援活動

想いを繋げていく活動

■ OPEN JAPAN 現地ベース　（愛媛県西予市野村町）

被災地域から離れた場所の小学校跡地をお借りしベースを構える


1日の始まりはラジオ体操から

朝のミーティング風景

みんなのご飯はみんなで順番に

資材は川で洗って

台風対策・避難準備

活動後の自主練

■ 学びあう場所、OPEN JAPAN ベース

「被災地のために何かしたい！役に立ちたい！」そんな一人ひとりが集う場所が OPEN JAPAN のベースです。同じ想いを持つ初めましての人々も共同生活・活動することによって、お互いの関係を築きあげることができます。
毎朝のミーティングは初めて来た人、今日旅立つ人の挨拶からスタートします。現場リーダーと共に自分で考え行動し、その学びを次の人へと繋いでいく…。「みんなで助け合う＆支えあう」は支援活動中だけでなくベースに戻っても一緒、日常の生活だって一緒です。みんなのために食事を作る、掃除をする、次の活動の準備をする。ここにいると、ちょっとだけ周りの人のことを考えずにはいられなくなる…共同生活を通して個人の生きる力を培う、そんな学びの場所が OPEN JAPAN のベースです。

家屋復旧作業

重機による土砂撤去

屋根まで浸水した家屋の天井はがし

大学生による足湯マッサージ

床板はがし作業

マンパワーも力を合わせれば・・・

床下土砂の撤去作業

仮設住宅で棚づくり
ワークショップ

床下の消毒作業

ボランティアセンターの向かいにサテライト事務所を設置

道具や機材の貸し出し

日本全国から届く支援

記録的な猛暑。いつでも無料の「オアシスかき氷」はみんなのオアシス

住人さんへ靴のおくり物

避難所にてコンサート

できる人ができる事を

昨年の被災地より陶器のおくり物

■ 縁の下から、OPEN JAPAN の支援活動

OPEN JAPAN が大切にしていることのほとんどは「人とのつながり」「目には見えないこと」です。これまでに被災経験された皆さんからの熱い想い、遠くから応援して下さる皆さんからの気持ち、実際にボランティアに駆けつけて下さる皆さんの力、などなど。「小さなことでも、できる人ができる時にできる事を、そういったバトンをつないで一つの目標のために動く！」私たちが被災地で動くことができるのは、多くの方々の想いや応援のつながりの先にあるんだなぁと実感しています。
現地で目に見えない想いをお届けできたとき、住民さんの笑顔がこぼれます。そして私達も笑顔になります。支えたり、支えられたり、助けたり、助けられたり…。
ご縁という見えないけれど確実に感じられるもの、温かい想いのバトンを繋ぐこと。これが私たち OPEN JAPAN がいちばん大切にしていることです。

地元のイベントでメモリアルブース制作

整体師の出張サロン

ジョッキー
緊急支援で現場作業を担当しています。住宅の復旧を全力でお手伝いしています。

吉田直緒子（なお）
緊急支援現地事務局＆現地ムードメーカー（元保育士）。時々サザエさんと呼ばれることも？！

てっしー@手代千賀
生まれも育ちも宮城県、元気は負けません◎　災害への思い・考えを出逢った方と学び伝えて行きます！

■ 2018年の主な活動内容　（秋田水害、大阪地震、西日本豪雨、北海道地震）

●ベースの設置・運営（ニーズ相談、現場調査、資機材管理シェア）●重機による活動（家屋内外、土砂流木撤去、車両・農機具搬出仮道路修復、倒壊家屋からの貴重品引き出し）●大工系の活動（家財搬出、床板撤去・復旧、家屋内外・床下泥出し水抜き、壁はがし、消毒、仮設住宅棚作り、地震で被害を受けた家屋の屋根修理、ブルーシート張り、外壁補修）　●炊き出しコミュニティサロンの実施、運営　●避難所支援（ミニコンサート、ニーズ相談、整体）●支援物資配布　キーン靴、小石原焼、梅干し、杷木柿等　●コミュニティ支援神社復旧、各種地元復興イベント実行委員参加　●生活再建・コミュニティ再生の場ときっかけづくり●地域産業再生炭窯なおしプロジェクト　●連携西予市社会福祉協議会ボランティアセンター・支えあいセンターサポート　●子ども支援　キッズカヌー、福島からの保養キャンプ（野尻湖、京都仁和寺、寺泊フェニックスハウス）　●被災地から被災地への橋渡し　●伝える活動（スキル、経験）被災家屋の対応説明会、仮設での暮らし方・棚づくり講習会、講演会、語り部●カーシェアリングサポート

■ 活動実績

大工系家屋内外作業	551 件
地域ニーズ	48 件
重機案件	142 件
サロン	19 件
炊き出し	8 件
かき氷 & 飲物	88 件

●活動人数：2,654 人
（OPEN JAPAN連携2018年5月20日～）

OPEN JAPAN
緊急支援プロジェクト
facebook ページ

農機具レスキュー　北海道厚真町

大阪北部地震　DRT-JAPAN

最初の一歩・・広島県呉市

車両レスキュー　北海道厚真町

福島からの保養キャンプ（野尻湖＆黒姫）

■ いつも最前線へ・・・

2018 年は、北陸地方の豪雪災害対策から始まり、大阪府北部地震、西日本豪雨、台風 18 号、北海道胆振東部地震と動き続けていた。そして、被災した方々にとって初めての被災経験に仲間たちと寄り添い、不安を取り除いていた。きっかけは・・・

私にとって、この災害救援活動の原点は、1995 年 1 月 17 日発生の阪神淡路大震災で、発生四日目に到着した神戸市長田区での体験からだった。「兄さん、話を聴いてくれるかの・・・」と焼け跡の匂いが漂う長田区の避難所でのこと。「瓦礫の下から声が聞こえるけど、火事の炎が迫 って 来て助けること出来なかったの・・・」と涙流しながら語りかけてきた老婆。近くに来ること、話を聴くことだけでも、大切なことがあった。

東京から神戸に移り住み 12 年間、様々な出会いと別れがあった。いつのまにか、国内外の被災地に駆けつけると「神戸から来ました!」と活動を開始し涙を誘った。海外の方々も被災地「KOBE」は知られていた。その後、中越地震で出会った小千谷の風組（新保重機）の協力で重機とのボラ連携訓練が始まり、多くの仲間たちが重機講習を受講し資格を取り「重機ボラ」が始まった。

あれから 20 数年、今「東北、石巻から来ました!」と宮城ナンバーの車で元気 を届け続けている。この報告書の仲間たちと、そして新しい仲間たちと・・・

吉村 誠司（助さん）
OPEN JAPAN 理事・ヒューマンシールド神戸代表・長野県森林整備技術者・下手な手品師

■ OPEN JAPAN 緊急支援、日本各地の被災地で活動！

平成３０年５月に発災した秋田市水害。昨年以前にも水害が発生しており、複数回被災した住宅も多数。構造部材に深刻な傷跡を残していたお宅も目に付いた。その為、丁寧な対応が必要だった。床下土砂の撤去後、消毒、住宅の維持管理方法の提案まで時間を掛けて行った。秋田市での災害支援が終り撤収後、大阪北部地震へ駆けつけた。大阪府茨木市で連携団体とボランティア支援ベースを立ち上げ、現地での支援活動を始める。屋根のブルーシート貼り、住宅外壁の補修等、支援活動中に西日本豪雨災害が発生し、大阪を仲間に託し西日本豪雨支援へ。復旧中に発生した北海道胆振東部地震にも駆け付け西予市と並行してベースを開設、車や貴重品の取り出しや支援物資の配布等行い、現在も愛媛を中心に西日本豪雨・北海道被災地にて活動継続中。（２月末現在）

北海道胆振東部地震（北海道厚真町）

秋田市水害（秋田市）

西日本豪雨（広島県坂町）

支援に入らせて頂いた方の声

福岡県東峰村　梶原文明さん

私が住んでいます福岡県朝倉郡東峰村は、九州北部豪雨にて、家屋に甚大な被害を受けました。「家の再建をどうしようか？」と途方にくれていた時にオープンジャパンの方から声を掛けていただき、自宅の再建に支援をいただきました。最初は知らない人からの言葉に疑いの気持ちがありましたが、オープンジャパンと関わりのある方（鬼丸氏）が東峰村出身ときき、ご縁を感じ安心したのを覚えています。

７月の暑い中、毎日の床上３０センチを超える泥出し作業、家族は当然のことですが、ボランティアの人たちの支援にて８月１０日には自宅に住めるようになりました。災害後の自宅を見た時には、言葉を失いましたが、多くの人に助けていただき、とても嬉しく思います。感謝してもしきれません。

九州北部豪雨　当時の様子

『三者連携』のはじまり

佐伯市社会福祉協議会　安達 真也さん

平成２８年度に発生した熊本地震で南阿蘇村災害ボランティアセンターを運営する中で、ひーさんと出会ったのが三者連携を考えるきっかけとなりました。発災当初から、南阿蘇村内には多くの支援団体が地域に来て、それぞれが活動していく中で、地元の行政・社協が今と、その先も住民と関係を保ち歩むためには行政・社協にできない事に目を向け、地元と共に歩む意思を持ってくれている人（団体）は誰か・・・一番厳しい状況で活動し、絶やさず地元の行政・社協に情報提供と連携を続けてくれたオープンジャパン★

災害時＝平常時と言いますが、地域共生に向け平常時の連携を心から想っています。

大分県災害ボランティアセンター
運営支援事業検討委員も担う安達さん

■ カヌーを用いて人命救助、そして水災後すぐに子供達のカヌー体験会を開催したことについて

浸水の被害で 2 階や屋根にに避難している多くの人をどうやって救助するかを…。車には、いつもカヌーを 2 艇乗せている。カタマラン（双胴船）にして、安定性のある乗り物になり、約 1t の積載が可能になる。脱水症状と防水保護のために 500 ㎖ペットボトルと 90L のごみ袋を調達、エンジン音の無いカヌーは、音をかき消すこと無く、助けを求める人のもとへ。家の 2 階等に避難している人が多く、ハシゴがかなり役立つのだ。このカヌーで 85 名と猫 1 匹の救助ができました。

この災害で子どもたちが水を嫌いにならないでほしいとの想いから、災害直後に、愛媛県西予市の子どもたち 41 名を早速、カヌー体験と水遊びに、四万十川へ誘い出した。子供たちはまたたく間に、優しい水と戯れ、笑顔をたくさん取りもどせたと感じます。豪雨による災害は、とても驚異ですが、日頃から備えることをはじめていきましょう。本来、水は害ではありません。水は優しさと恵みを持っていますから。

木村 とーる
カヌーを中心に、永続可能なライフスタイルの提案、環境文化プロジェクト、四万十塾　９５年設立　塾長

救助のために組んだカタマラン

2 階からハシゴを使って救助（岡山県真備町）

水で遊ぶのは楽しいよね。

何人乗れたかな？

水に浸かってランチタイム（四万十川）

■ 支援のかたちのひとつ・・・。

昨年、西日本を豪雨が襲った。テレビを見ていて、東日本大震災の被災地のことが頭に浮かんだ。あの時、大渋滞で全く動かない車の中でテレビが映し出す津波の映像。いてもたってもいられなかった。自分も何かしなきゃ、でも何もできない。

一週間ぐらいして復旧に現地に入っていた野外体験の仲間から連絡があった。「だいぶ落ち着いた避難所もあるから是非慰問に来て欲しい」と。避難所でサインをしたり写真を撮ったが、本当の笑顔にならなかった。でも子供たちとサッカーをして盛り上がってきた時、ふと見るとグランドの周りに皆んなが出て来ていて最高の笑顔をしていた。その時に気がついた、『先が見えない時、人の希望は子供達、そう子供達の笑顔だと』それなら自分も役に立てる。それから何度も被災地に通った。昨年の豪雨で我々 FC 今治のある愛媛県も大きな被害を受けた。我々はすぐに選手スタッフ全員で被災地に入りボランティアをした。その後もボランティアを続けると共に被災地の子供達を試合に招待したり、被災地でサッカースクールをしたりした。被災地の子供達が笑顔になり、そしてみんなが笑顔になるまでと。

岡田武史

FC 今治、岡田武史氏は西日本豪雨災害では OPEN JAPAN と８回に及ぶ支援活動を共にする。

■ 恩送り　～過去の被災地からの支援のバトンを繋ぐ～

土嚢袋応援メッセージ　過去の被災地からボランティアへ（東峰村村長一行）

この数年、沢山の自然災害が全国で起こった。私達が被災地支援活動をしていると、あちこちから連絡が入る。「何か私たちに出来る事はありませんか？」宮城、和歌山、茨城、栃木、熊本、岩手、福岡県等の地域も少し前に突然、自然災害に見舞われた。その復興半ばの方々からの熱い思い。動かずにはいられないとトラックに資材を載せてくる人々。土のう袋やフラッグのメッセージ、手製の梅干し、陶器、栗まんじゅうなど形は色々。「大丈夫！きっとまた、立ち上がれる」との全国からの「恩送り」を繋いでいる。被災地から被災地への心のバトンを繋ぐ縁の下のお手伝いをしていきたい。

活動を共にしたボラ仲間の声

梶原成美さん　from 福岡県東峰村

私の村は、３５０年以上続く小石原焼と自然と歴史の豊かさが自慢の美しい村です。そんな自慢の村が２０１７年の７月５日、一日にして姿を変えてしまいました。(九州北部豪雨) 皆どう動いて良いのか分からず無我夢中でした。そんな中 OPEN JAPAN（以下 OJ）の方々に出会いました。OJ の方々は、現地調査を行い、村民に寄り添い私達がどう動いたらスムーズに行くのかアドバイスをくださり、毎日一緒に汗を流して下さいました。毎日何百人と言うボランティアの方が来てくださる事も驚きでしたが、その方々を上手くまとめて現場に繋いで指揮をとる、その姿を間近で見ていて毎日感動の連続でした。災害は、あってはならない事、辛い事ですがそんな OJ の方々の働きを知り、共に働けた事は、私の人生の中で大きな糧となっています。昨年の感謝の気持ちで今回の西日本豪雨のボランティアとして参加しました。そして、まだまだ続く村の復興にも力を尽くしていきたい！そう思っています。OJ の方々との出会いに感謝です。

バンさん　from インド

こんにちは、インド人のバンです。４年前、地震の勉強するために日本へ来ました。２０１６年に初めて先生と一緒に東北へ行ったとき、災害はどういう感じのものかを自分の目で確認できた。それから２０１６年の熊本地震のあとから IDRO の NPO で災害ボランティアを始めた。今回の２０１８年西日本豪雨災害のあとも２週間､IDRO と愛媛で災害ボランティアの活動をした。この時初めて Open Japan の base camp に参加した。外国人と日本人が一緒に協力し合って頑張ってた。この経験が忘れられない。毎日、みんなと一緒に朝食を食べながらその日の活動の打ち合わせをし、昼にはみんなで協力して活動をし、夜帰ってからは今日のやった内容を話して絆を深めた。Open Japan の base camp での活動は、私にとってとても貴重な経験となった。炊出しでは、私の郷土料理であるインドカレーを地元の方々とボランティアの皆さんと一緒につくることができ、皆さんと交流できたことは忘れられない思い出です。

貸し出した軽トラを使って瓦礫を廃棄している利用者

実際に車を貸し出した方の車の様子

岡山県・日本自動車販売協会連合会岡山支部・岡山県軽自動車協会と災害時における連携協定を締結した時の様子

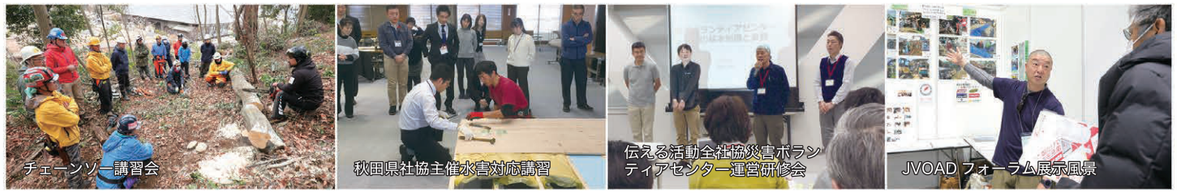
←今回の連携について伊原木岡山知事からのメッセージを動画で確認いただけます。

■ 緊急時のカーシェアリング支援

西日本豪雨では、非常に多くの車が被災し、移動手段を失った被災者の方々は大変な苦労をされました。そんな中私たちは、倉敷市真備町を拠点に寄付で集めた９８台の車を現地に届け、被災者・支援団体等に６２９件の無料の車の貸し出しを行いました。これまでの１０倍以上の規模の支援が行えたのは「地域連携」ができたからです。地元自動車販売店が車を集め、行政が場所の確保と広報を行い、私たちが車を貸し出す連携の雛形ができたのです。1月17日に岡山県･地元の自動車販売店の業界らと災害時における連携協定を締結しました。これからは発災前に災害に備える地域連携作りを行い「災害が起こっても車不足で困らない社会づくり」を進めてまいります。

吉澤 タケ
OPEN JAPAN と日本カーシェアリング協会の代表理事。東日本大震災以降、石巻でずっとカーシェア続けてます。

■ オープンジャパンの緊急支援、今私たちがするべき事は・・・。



チェーンソー講習会　秋田県社協主催水害対応講習　伝える活動全社協災害ボランティアセンター運営研修会　JVOAD フォーラム展示風景

今までと変わらずに被災された方々の側で団体の枠にとらわれずに一歩踏み出すお手伝いを続けていきます。

- ●災害支援のネットワークの更なる構築と三者連携 (行政 / 社会福祉協議会ボランティアセンター /NPO) の推進。
- ●現場スキルやノウハウを磨き伝え広めるその為の関東または東海地区などでの緊急支援プロジェクトのベースを探し講習会の定期開催化を進める。
- ●災害時の法律や制度仕組み作りと実行への提案提言によってより良い被災地の復旧復興への力添え。
- ●過去の法律の弾力的運用や事例のデータベースプロジェクトを様々な機関に働きかけ構築を目指す。
- ●講習会や語り部、またシンポジウムの参加や開催を通じて、災害に適応できる人間力 地域力 街作り社会を目指して災害から見える社会の課題を意識して考え動き繋げる活動を進めて行く。
- ●日本の民間災害支援チームの雛形をみんなで作る。

共に支援活動をしながら現地で沢山の写真を撮ってくれたパウロから一言

震災を風化させるものは忘却です。現地で出会った人たちと、縁の下で動く仲間の姿を留めたい。被災の記録が復興の記憶となり、住民さんの明日へつながる。そんな写真のために現場にいます。

カーシェアリングプロジェクト

東日本大震災の時、約6万台の車が被災した宮城県石巻市で寄付で集めた車を使って支え合う地域づくりを続けてきました。目の前の人に向き合いながら取り組んできた事業は３つに集約されました。

■ コミュニティ・カーシェアリング

同じ地域に住む人たち同士でルールを決めて車をシェアし、高齢者の外出支援や、乗り合いでの買い物やお出かけ等を行う地域のサークル活動を『コミュニティ・カーシェアリング』と名付け、その立ち上げと運営のサポートを行っています。石巻市内の復興公営住宅や被災した地域などで９地域264名（2018年12月末）の平均年齢74歳の方々が楽しみながらこの活動に参加してくださっています。

■ ソーシャル・カーサポート

生活困窮者や支援団体を応援するために期間や料金を使いやすい形で車を貸し出したり、公共交通機関で行きづらい半島沿岸部の商店や宿を利用したらキャッシュバックするレンタカー等、車を貸し出すことで地域を元気にする活動を行っています。

■ モビリティ・レジリエンス

災害時に寄付で集めた車を被災地に集め無料の貸し出しを東日本大震災以降起こった様々な災害で行ってまいりました。（西日本豪雨支援の様子は前ページで紹介）

この１年で最も大きかった成果は『コミュニティ・カーシェアリング』の導入プログラムができて、石巻以外の地域での初の実践（岡山県の美作市と岡山市の２地域）で始まったことです。ありがたいことに石巻の近隣の自治体はもとより、福島県、鳥取県、滋賀県、奈良県の住民主体の移動支援を模索する地域で導入もしくは導入を想定した説明会の実施が春以降決まっています。これまで様々な支援を受けて石巻で培った経験をようやく他の地域へ役立たせていく時が来たのです。

「東日本大震災で最大規模の被害を受けた石巻から社会を変える」、そのことを思い続けて８年、ようやく道筋がちらっと見えてきました。超高齢化社会・災害多発時代を迎える今、私たちはそうした課題に真正面から向き合い具体的な行動をもってしっかり取り組んでまいります。まだまだ道のりは長いですが、どうぞこの旅路にお付き合いくださいますようよろしくお願い致します。

『コミュニティ・カーシェアリング』の利用者を個別にヒアリングしながら円滑な運営をサポートしています。

最高齢 93 歳の利用者の方もお出かけを楽しみにしてくださっています。

ご近所さんが高齢の方の外出支援を行っています。

岡山県美作市上山集落（人口140 人）で『コミュニティ・カーシェアリング』の仕組みを実践されている皆さん。

西日本豪雨では車を失った多くの方々が避難所から自宅まで炎天下の中、1時間以上かけて自転車やバスで毎日通いながら片づけを行っていました。そんな方々へ想いのこもった寄付車を1台1台届けてまいりました。

ベルギーからゲストを招き『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウムin 石巻を開催しました。（2018 年７月）

石巻市と災害時における相互応援協定を締結しました。（2018 年８月）

第９回地域再生大賞優秀賞を受賞しました。（2019 年２月）

日本カーシェアリング協会
Japan Car Sharing Association
宮城県石巻市駅前通り一丁目５番23号
tel:0225-22-1453　http://www.japan-csa.org
e-mail : info@japan-csa.org
営業時間　9:00～18:00（お盆と年末年始は休み）

「語り部」が担う役割

自分がこれまでの語り部で伝えて来た事は、東日本大震災から学んだ教訓、認識・知識・意識と、助け合い・支え合い・励まし合う事でしたが、OPEN JAPAN と共に災害支援を通して学んだ技と技術や、被災された皆さんの不安な想いや戸惑いの心を、しっかりとレスキューしてきた事も、今後起こりうる災害の前に、伝えていく必要がある。重機を活用した貴重品の取り出しや土砂の撤去、大工系の技術を活かした床下の泥出しや仮設住宅に於いての棚作り。そして被災された皆さんが、仮設や在宅で生活している事に対しても、公平な支え合い支援や見守り活動をして、発災直後から被災地域やその住民が歩み始める復旧期まで、長きにわたり現地のペースに合わせて支援を続ける OPEN JAPAN。こうした取り組みも、どんどん伝えていく必要がある。

これまで培ってきた技と技術と心意気を、今後も次世代と未来に、自分は OPEN JAPAN と共に伝え続けて行く。共に歩もう！明日へ！未来へ！。

寄り添うばんちゃん

いつも一生懸命に話してくれます

もう１つの得意技はこれ

古民家再生 IBUKI プロジェクト　２年目の「食堂いぶき」

＜とある日＞　地元の方の定例お茶っこ会。地元の方々がぶらぶらと食堂いぶきに集合。暑い日も、風の冷たい日も、夕焼けの日も、ほうじ茶をすすりながらいつも通りのおしゃべりの時間が流れ、被災後の大原の様子を思うと夢のような大原タイムとなりました。

＜ゴールデンウィーク＞　家族連れや石巻近辺で311後にボランティアをしていたチームがご来店。同窓会のようにお店を使っていただくこともありました。春の風が気持ちよくてウッドデッキで遊ぶ子ども達の笑い声が響きあったか～い時間でした。

＜2019年3月＞　食堂いぶきの前に大きな慰霊碑が完成しました。登ると防潮堤で見えなくなっていた海が見えます。トイレや休憩などでも食堂いぶきを使っていただけたら嬉しいですね。

＜これから＞　お店の運営は皆様にご心配をお掛けしておりますが、牡鹿半島の復興と共にゆっくり１歩ずつ歩んでいきたいと思っております。温かく見守っていただけたら幸いです。

築約８０年の古民家を再生。

牡鹿半島内外のお客様。

牡鹿半島食堂いぶき
宮城県石巻市大原浜字町18-1
tel:0225-25-7282
http://oshika-ibuki.com

アースフォレストムーヴメント

松田 卓也
OPEN JAPAN 森林再生構想担当
アースフォレストムーヴメント制作委員会代表。

2018 年の母の日、日本の森林再生につながる「千里の道の一歩目」として、森と水のシンポジウム「マザーアースデイ 2018（場所：びわ湖ホール）」を開催しました。これは歴史あるお寺、三井寺（大津市）を植樹先としたチャリティーイベント。多くの方からの多大なるご協力のもと、おかげさまで未来への一歩目となるお力を募ることができました。皆様、本当に有難うございました。これからも「森はみんなの力で 変えられる」ことを信じて。

WEB サイト
www.earth-forest.jp

三井寺植樹地のお手入れワークに集ってくれた子どもたち

OJ コラム　生きる　第二回　僕はねぇ・・・

『オレは渡れると思うよ！このぐらいの波』
『渡れるわけないじゃん、ちゃんと見てよ！
あっちは白い波が立ってるじゃない』
『そんなもん、力で抜ければ何とでもなるだろ！』
『全員で動かなきゃダメだって言ったじゃん！
力の弱い子だっているでしょ！』
『自分勝手な事言わないでよ！』

台風が小さな島にやって来たんだ。台風は無事に過ぎ去ったのだけれど、海はなかなか穏やかになってくれない。次の島に渡れずに小さな島に閉ざされて４日目…僕らの旅が始まって６日目。始めて出会った仲間たちと、気の合うグループは出来たけれど、自然を前に僕たちが旅を続けるには、14人全員が一人一人と向き合わないとダメなわけで、それが、とっても難しいわけで…。

涙を流しながら、訴える子、引くに引けなくなってる子、どうしていいか解らない子、何とかこの場を収めようと必死な子。小さな体で仲間と共に、希望の島へ行く為に、必死に仲間と向き合ってる姿は、今も忘れてないよ。地球は気分屋さんに感じるよね。せっかくの楽しい旅の時間のはずなのに、思い通りにならないし、僕たちは今、留まるしかないんだし…。ぐっとこらえたこの時間は、きっといつか何かを決断する時に、ちょっとでも、ちょっとでも…思い出してくれたら、おぢちゃんは嬉しいな。

がってん
人を元気に、地球に元気を。
「しなまみ野外学校」

福島からあなたへ・・・　第二回

エネルギーとなる薪を割る

福島県の山林で、山の水と薪をエネルギーとして暮らしています。可能な限り自分たちのまわりにあるもので生活をしていくことを試みています。OPEN JAPAN の放射能測定器で今年も野生のきのこの放射線量を測りました。1kgあたり放射性セシウムが440ベクレル検出されました。知人から「少ないね～、食べられるね。わたしの住んでいるところでは２万ベクレル検出されたよ。」と言われました。県内でも差があります。福島県外に住む方はどう思いますか。過去は学ぶもの、未来は今の積み重ねです。この世界は起きた事象から今の生き方を気づかせてくれるようにできています。

今年も８月５日に広島県の太田川に捧水をしに行きます。太田川のほとりで水合わせをして、翌日の灯籠流しに参加します。福島から広島へ。祈りによって運ばれた水が海へと注がれこの水の惑星を廻り、人々の意識が目覚める一滴になることを願っています。

鈴木 よし子
盾の製作を通してこの世の真実を探求中。「月とカヌー」

■ 水の祈り　～ 毎年８月５日、広島にて水のことを考える時間を過ごしています ～

自然と流れる気持ちの良い水に触れると気持ちが良くなり、ドロドロ溜まった気持ちの悪い水に触れると気持ちが悪くなります。水はソレを伝染させる性質を持っています。毎年８月５日夕方、原爆ドーム近くの広場（通称ポップラ）にて、全国から気持ちの良い水を持ち寄り、それを合わせ、太田川を通して地球の隅々に繋がる水に気持ち良さが伝わるイメージをする、そんな時間を過ごしています。ぜひ皆様もご自身の住む地域のきれいな水をお持ちになって広島にいらしてください。　（鈴木 匠）

広島でお水合わせ「水の祈り」
canoeday.com/hiroshima/

川下りの準備

太田川を下る

水を中心に集まる

水を太田川に献水

8月6日、灯籠流しのサポート

パタゴニアから防寒具の提供

コールマンの提供機材を運ぶ子供達

作業の依頼を受ける三井住友 FCS 推進室

KEEN から安全靴や衣類の提供

企業との連携

熊本地震以来、集まった寄付額と同額を企業が寄付する『マッチングペイ』をキーン・ジャパン様に企画いただき、現場で迅速な活動ができました。また、コールマン様から被災地の方々、また支援活動のために多数のテーブルや椅子、テント等をいただき、癒しの場を作ることができました。パタゴニア様からは支援金に加え防寒衣料もいただき、寒い北海道で大助かりでした。三井住友フィナンシャルグループサステナビリティ推進室様とは、石巻での漁業支援や仮設・復興住宅のコミュニティー支援を継続しています。私たちだけではできない、より大きな社会貢献をこのほかの企業の皆様と共に実現していきます。

OPEN JAPAN の仲間たち

現場を共にした仲間たちと連携を行いながら各プロジェクトに取り組んでいます。(2018年度)

- 愛知人
- ㈱アクティブサポート
- 阿蘇の灯り
- 石狩思いやりの心届け隊
- 笑心の会
- 愛媛大学社会共創学部
- 風組関東
- 香川大学 防災サポートチーム
- カフェデモンク
- キーン・ジャパン合同会社
- 群馬藤岡災害ボランティアサークル
- 国士舘大学 防災･救急救助総合研究所
- コールマンジャパン株式会社
- 特定非営利活動法人 CONCENT
- 災害 NGO 結
- 災害 NPO 旅商人
- 災害支援信濃町連絡会
- 災害ボランティアチームできるしこ隊
- 澤田奉賛会
- ㈲白石電設
- NPO 法人 シルミルのむら
- 震災がつなぐ全国ネットワーク
- 真如苑救援ボランティア(SeRV)
- NPO 法人スマイルシード
- 大東文化大学 河野ゼミ
- ダッシュ隊大阪
- ダッシュ隊徳島
- チーム佐伯
- チーム零
- チーム東峰村
- チーム藤さん
- チーム松末
- ちょんまげ支援隊
- 徳恩寺 神奈川青年教師会
- 長門消防有志チーム
- なまはげこまち
- 西東京臨済会災害支援部「臨坊」
- 公益財団法人 日本財団
- 日本 JC 北海道地区協議会
- 杷木復興支援ベース
- パタゴニア日本支社
- NPO 萬ちゃん
- 一般社団法人 BIG UP 石巻
- ピースボート災害ボランティアセンター
- 被災者支援ネットワークにんにこ･和歌山
- NPO 法人 V サポート
- 一般社団法人 フェニックス災害支援機構
- 一般社団法人北海道災害対策協議会
- 富士ゼロックス端数の会
- NPO 法人フラワーピープル
- プロボノやまとえん
- NPO法人ホップ障害者地域生活支援センター
- ボランティアチーム援人
- 三井住友ファイナンシャルグループサステナビリティ推進室
- 南浜ひまわりプロジェクト
- 公益社団法人 みらいサポート石巻
- 勇気野菜プロジェクト
- ライオンズクラブ国際協会 336-A
- NPO レスキューアシスト
- NPO法人 レスキューストックヤード
- BORDERLESS FIRE
- DRT JAPAN
- DRT 広島
- FC 今治
- IDRO JAPAN
- It's Not Just Mud
- IVUSA
- Jump
- JVOAD
- NINO inc
- NPO法人 SEEDS OF HOPE
- U.grandma 他（五十音順）

神戸元気村から OPEN JAPAN、そして今

呆然とテレビを見続けるしかなかった1995年1月18日の夜、届いたバウさんからのFAX。大きな文字で「東灘区石屋川公園で炊き出し始めまーす」。伝説のボランティア集団、神戸元気村の始まりだ。団体ではなく集団と書いたのは意味がある。一人一人が独立した個の集まり、それが元気村だからだ。当初の元気村は、公園の中央にはティピが立ち、既存の常識に抗う老若男女たちが右往左往し、例えば、全倒壊した建物に入って被災者が大切に思う品々を探すなど、他団体はやらない独自の活動を次々と生み出し行い続けた。元気村が８年間も続いた理由がここにある。

時は流れ、そして、311。それぞれの信ずる道を歩んでいた元気村の各々が東北に集まり、思いを集めて OPEN JAPAN となった。２０１８年７月の水害に遭い被災者となった私を、頼もしい彼らが訪ねてくれて、久々の出会いに元気をもらった。真備（岡山）でも私の知らない若いメンバーが活動を続けている。元気村のスピリットは今も息づいている。

中村 俊一
阪神大震災では救援資材の集約地点となって元気村に運ぶ役を担う。現在は、有限会社アルテバランに所属。

床上浸水した事務所の様子

神戸市灘区石屋川公園

神戸元気村事務所

神戸元気村の仲間

時を経て石巻に集まった仲間たち 2011.3.19

神戸元気村の活動についてはこちらの WEB サイトをご覧ください。

KOBE 元気村

www.peace2001.org/genkimura/

東日本大震災以降の OPEN JAPAN の活動

2011 年　（平成 23 年）
- 3月　東日本大震災（宮城県石巻市、他）
- 7月　新潟・福島豪雨（福島県金山町）
- 9月　紀伊半島豪雨（和歌山県那智勝浦町、他）

2012 年　（平成 24 年）
- 5月　つくば市竜巻被害（茨城県つくば市）
- 7月　九州北部豪雨（熊本県阿蘇市・南阿蘇村、他）

2013 年　（平成 25 年）
- 8月　岩手県央豪雨（岩手県雫石町）
- 10月　台風 26 号土砂災害（伊豆大島）
- 11月　フィリピン台風被害（レイテ島、他）

2014 年　（平成 26 年）
- 2月　豪雪被害（埼玉県秩父市・山梨県）
- 8月　広島土砂災害（広島県広島市）
- 11月　神城断層地震（長野県白馬村）

2015 年　（平成 27 年）
- 4月　ネパール大地震（ラップラック村・ブンガマテイ村）
- 9月　関東･東北豪雨（栃木県鹿沼市･茨城県常総市）

2016 年　（平成 28 年）
- 4月　熊本地震（熊本県南阿蘇村･西原村･益城町・熊本市・阿蘇市、他）
- 8月　台風10号大雨被害（北海道南富良野町、岩手県岩泉町）

2017 年　（平成 29 年）
- 7月　九州北部豪雨（福岡県東峰村・朝倉市、他）

2018 年　（平成 30 年）
- 5月　秋田市水害（秋田県秋田市）
- 6月　大阪府北部地震（大阪府茨木市、高槻市）
- 7月　西日本豪雨（愛媛県西予市・宇和島市、広島県広島市、呉市、坂町、岡山県笠岡市、真備町、他）
- 9月　北海道胆振東部地震（北海道厚真町、むかわ町）

■ OPEN JAPAN の活動を支えるということは。

地獄温泉青風荘　河津 誠

熊本地震から３年を迎えようとしています。何も動かず何も進まずの毎日を心が折れずに乗り切ることは、とても困難なことでした。困難を目の前にしていつも思い出すのは、明日をも知れぬ大惨事の時に駆けつけてくれた OPEN JAPAN 緊急支援チーム、そして彼らを支えてくださる全国の皆さんの想いでした。遠く離れても皆さんの応援は届いています。私たちの旅館、地獄温泉の復旧に関わっていただいた皆さんに感謝しながら２０１９年４月１６日の発災の日に「すずめの湯」、そして２０２０年４月を目処に宿泊施設の営業再開を目指して頑張っております。
今、私は「OPEN JAPAN の活動を支えること」＝「確実に被災地に想いが届く」と実感しています。ぜひ私たちと共に具体的にOPEN JAPANを支えていきましょう。それが次なる被災地の笑顔に直結すると確信しております。

地獄温泉 青風荘
869-1414 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 2327

■ Pay It Forward（ペイフォワード＝直訳：先払い）　～恩送りの連鎖～

災害発生時には、急を要する物資や支援に必要な機材などを「Amazon 欲しいものリスト」で募っております。最初の支援行動、それが次の人へと送られ、また次へと繋がり気持ちの連鎖が生まれます。その最初の恩を生み出す気持ちを先に自ら払う行動、それを「ペイフォワード」と私たちは考えています。現地で活動を共にする直接的な支援の他、物やお金による支援、これらもペイフォワードの精神。先人たちが先に築き払ってくれた温かい気持ちを私たちが今、実際に受け取りながら活動をさせて頂いております。
OPEN JAPAN では様々な形でのご支援・ご参画を募集しています。例えばプロボノ（専門知識を人々のために生かす）でのご支援。（写真や文章、デザインや映像、WEB制作など大歓迎）ぜひあなたのノウハウを私たちの活動の中でめいっぱい活かしてください！

■ バウの道中記　～『チベットの死者の書』49日間の物語 ～

亡くなる１週間前に OPEN JAPAN 創設者のバウさんから託された最後のプロジェクトがこの冊子です。この物語には死後 49 日間にバウさんの魂が体験する世界が描かれています。「輪廻転生の世界観を自分の中に標準装備すれば生き方が変わる」と、バウさんはよく話されてました。ご自身の分と合わせて大切な人へも渡してあげてください。
お申込は電話かメールか払い込み用紙で。
◎A5サイズ 60 ページ　300 円（送料別）

OPEN JAPAN よりご支援のお願い

OPEN JAPANの活動は皆様からのご支援によって支えられております。災害発生時、初動の緊急支援ではベースの立ち上げや、活動に必要な機材の運搬や燃料など、全て皆様の気持ちが形となり被災された方々への支援と繋がっております。また、地域の方々が安心して関われる関係性を大切にし、今、何が必要とされているかを常に考え、臨機応変に対応し、各被災地で活動を続けさせて頂いております。こうした全ての活動の源となるOPEN JAPANの活動費へのご支援を是非よろしくお願い致します。

▼ ゆうちょ銀行 → ゆうちょ銀行 の場合
□座記号番号 02250-5-126661
□座名称　一般社団法人 OPEN JAPAN
□座名称　シヤ）オープン　ジャパン

▼ 他銀行 → ゆうちょ銀行 の場合
店名(店番) ニ二九(ニニキユウ)店(229)
預金種目　当座
□座番号　0126661

仮想通貨でのご寄付の受付スタート！

昨年より仮想通貨での寄付も受けられるようになりました。ご自身のビットコインウォレットから右記ＱＲコードを読み取ると寄付ページに進みます。

※ビットコイン以外でも BCH、ETH、LTC、XRP でも受け付けております。
詳しくはお問い合わせください。

ビットコインの受金 QR コード

マンスリー・OJサポーター募集！

みなさまからの毎月のご支援に支えられております。

マンスリー・OJサポーターは毎月定額の寄付で、継続的にOPEN JAPANの取組をサポートいただける仕組みです。お支払方法はクレジッカードと口座振替をお選びいただけます。（月額 1,000 円～）詳しい内容、お申し込みは OPEN JAPAN のWEB サイト内サポーター募集ページ（右のQRコード）よりお願いいたします。また、口座振替をご希望の場合はメールまたはお電話にてご連絡ください。振替用紙を郵送させて頂きます。

一般社団法人 OPEN JAPAN の決算報告は、WEB サイトよりご覧ください。　www.openjapan.net/calendar/houkoku

編 集 後 記

今年も、これはただの報告書を作っているのではないと思いながら編集作業を進めていました。よくOPEN JAPANはボランティア団体といわれますが、ここに載っている殆どの人は、自分の事をボランティアだと思っている人がいないのではないかと。ただ、心の声を聴きながら生きている個々の集まり、そして「他人の幸せ」が「自分の幸せ」なんだと気がついている人達の集まり、というのが僕が感じるところです。今回この報告書の先に見えないページを用意しました、ぜひご自分の ___ を使ってめくってみてください。

鈴木 匠
OJいろいろ係
「月とカヌー」

OPEN JAPAN オープンジャパン
一般社団法人OPEN JAPAN オープンジャパン
〒986-0813 宮城県石巻市駅前北通り1丁目5-23　Tel&Fax：0225-92-7820
E-Mail：info@openjapan.net　URL：www.openjapan.net

編集・デザイン
月とカヌー

構成団体：一般社団法人日本カーシェアリング協会・株式会社IBUKI・ヒューマンシールド神戸・四万十塾・わっか・空間工作舎 VIBRATIONS・石巻カヌークラブ・月とカヌー・有限会社アルデバラン